

5 災害に強いまちづくり計画



共通

施策 6-2-⑭

防災活動拠点の整備（防災公園等）

【取組の概要】

本項目における「防災活動拠点」とは、地震などの大規模な災害が発生した場合に、関係団体が滞在して活動できる機能を有する施設のことをいいます。

防災活動拠点となる公共施設等

区分	防災活動拠点と位置付ける施設
①医療・診療施設	地域防災計画に医療救護施設として位置付けられている施設
②道の駅	道の駅の中でも、道路管理者と市町村等が防災・減災の役割分担について協議し、調整を終えた施設
③防災公園等	避難所に指定している施設

医療・診療施設である病院・診療所等は「人の命を守る」重要な防災拠点であり、津波浸水想定区域外の安全な場所への整備が求められます。

道の駅は交通の要衝に立地しているため、「救護・救助・応急活動の場」「被災者の受け入れ先」「備蓄場所」等となります。道の駅の防災拠点化に際しては、道路管理者と地方公共団体が役割分担について協議・調整を行って進めます。

防災公園は、都市の防災機能の向上により安全で安心できる都市づくりを図るため、地震災害時に復旧・復興拠点や復旧のための生活物資等の中継基地等となる防災拠点で、周辺地区からの避難者を収容し、市街地火災等から避難者の生命を保護する避難地等として機能する地域防災計画等に位置づけられる都市公園等のことをいいます。

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・ 平常時に利用している施設（公共施設、公園等）を、災害時に活用する方法を検討する必要があります。
- ・ 防災拠点の整備にあたっては、非常用電源等の確保が必要です。また、東日本大震災では、太陽光や小型風力等の新エネルギーや蓄電機器の重要性が認識されました。さらに、ヘリポートとしての機能を発揮させるため、近辺には鉄塔を建てさせないなど、周辺の環境整備も必要です。
- ・ 避難者は、災害に関する情報を求めるニーズが高いことから、防災拠点での情報収集体制を構築しておく必要があります。また、長期間の滞在や周辺地区住民の避難収容を見据えた備蓄、支援物資の受け入れ等を検討しておく必要があります。

5 災害に強いまちづくり計画



- ・右に示した宮城県女川町の女川町立病院は高台にあったため、津波の浸水が非常に少なく、病院としての機能を十分に発揮したといわれています。
- ・病院等が高台等へ移設した場合の高齢者等の移動の手段確保が課題となります。循環バスの整備等も同時に進める必要があります。
- ・津波被害によって沿岸部では壊滅的な被害が想定される中で、後方支援の拠点となる施設の確保が重要であり、広域的な観点からの検討が必要です。なお、後方支援活動が効果的に機能するためには、国・県・市町村、警察や自衛隊等の連携が重要であり、関係機関等の協働による訓練の開催等を行う必要があります。



高台に配置された宮城県女川町立病院等
(参照：四国地震防災基本戦略)

◆参考資料

- ・防災公園の計画・設計に関するガイドライン（案）（国土交通省都市局公園緑地・景観課、国土交通省国土技術政策総合研究所、平成27年9月改訂）

【事例】

○防災公園：徳島県阿南市 阿南南部運動公園（県・市：運動公園）

・防災公園（地域防災拠点、避難地となる都市公園）の整備

- ・阿南南部運動公園は、総面積は約70haであり、競技施設（多目的広場・管理棟含む）は阿南市が管理、競技施設以外（遊具広場、散策路など）は徳島県が管理しています。
- ・公園内には防災トイレが整備され、多目的広場はヘリポートにも利用できます。高台に徳島県の急傾斜事業と組み合わせ、防災公園を整備したものです。

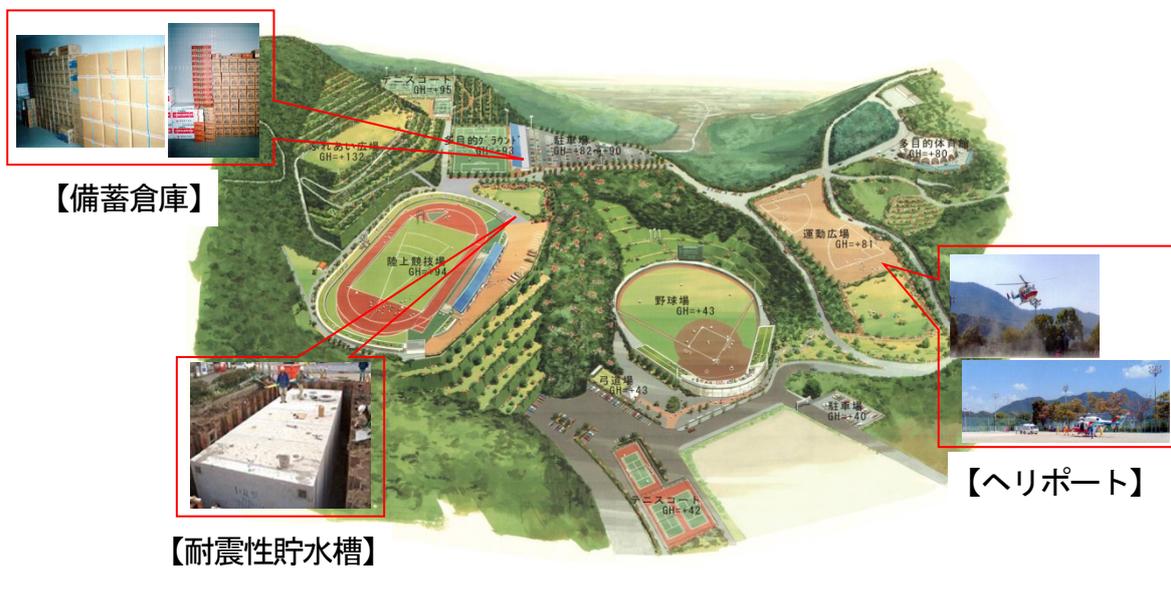




○防災公園：愛媛県宇和島市 丸山公園（市：運動公園）

・防災公園（地域防災拠点、避難地となる都市公園）の整備

- ・丸山公園は、都市の防災機能の向上により安全で安心できる都市づくりに寄与するため、災害時の避難場所となる防災公園であり、備蓄倉庫、耐震性貯水槽、ヘリポートを有しています。
- ・日常の散策・スポーツレクリエーション・集いの場等として、“高齢者から子供まで気軽に憩い遊べる”緑豊かでバリアフリーに配慮した「歩いていける身近な公園」です。



○阿南市の取組み

・急傾斜地崩壊対策工事と合わせた防災公園の整備

- ・阿南市では、津波避難場所の確保のため、阿南市橋町西浦地区において徳島県と連携を図り、四国で初となる特定利用斜面保全事業による防災公園の整備を行いました。
- ・具体的な内容としては、徳島県が実施する急傾斜地崩壊対策工事に合わせて、阿南市が災害時の一時避難所となる防災公園整備工事を一体的に実施しています。



橋地区防災公園（出典：阿南市提供資料）

5 災害に強いまちづくり計画



○久万高原町の取組み

・防災拠点機能を有する道の駅「天空の郷さんさん」の整備

- ・久万高原町の道の駅「天空の郷さんさん」は、災害時において「久万高原町が生き抜く」ための施設として、避難所・後方活動等の拠点施設として整備されています。



道の駅の防災センター



- ・地域防災計画にて、救援物資の集積・輸送拠点、応援の受入・活動拠点等として位置付け
- ・1階を備蓄倉庫、2階をボランティアの指令本部として活用を想定
- ・自家発電や燃料タンク等があり、一定期間の活動が可能

○岩手県遠野市の取組み

・立地特性を活かした後方支援拠点施設整備構想により、東日本大震災時に防災活動拠点として大きな活躍

- ・岩手県遠野市は半径 50 km圏内に沿岸部及び内陸部の市町を包括しており、ヘリコプターで約 15 分の距離にあるという立地特性を活かし、後方支援拠点施設整備構想を作成していました。
- ・整備構想に基づき、施設の整備や自衛隊等との震災対応訓練を実施してきたことで、東日本大震災の際にもスムーズな対応を行うことが可能となりました。
- ・なお、東日本大震災の際には、災害時の対応マニュアルや計画がなかったものの、各機関の申し合わせ事項や訓練の成果で、運動公園に警察や自衛隊、救援部隊等の円滑な受入を行っています。



遠野市の地理的概要及び支援部隊経路計画



出典：いずれも遠野市提供資料

平成20年度陸上自衛隊東北方面隊震災対応訓練～みちのCALERT2008～



○美波町の取組み

・地理的条件を活かし、災害時の中核となる災害対策本部の後方支援拠点の整備

- 赤松地区は、山間部に位置し、津波浸水想定区域外であるため、地理的条件を活かし、災害時の中核となる災害対策本部の後方支援機能等としての活用を想定しており、現在、小学校跡地に防災拠点施設を整備しています。

■災害時の機能

- 自衛隊など外部からの後方支援受入施設としての機能、支援物資の集積や搬送の基地としての機能等としての活用を想定。

■平常時の機能

- 町内の自主防災会の研修や訓練機能、地域内外の住民等とのつながりを深める拠点施設としての活用を想定。

■期待される効果

- 行政と地域（住民）との協働による安全・安心なまちづくりが促進され、持続可能なまちの形成につながっていくことが期待されます。
- 地域の資源（米、みそ、豊富な水源）を活かし、地域全体を備蓄倉庫と位置づけることにより、支援の迅速化、地域内での応急仮設住宅等の整備促進が図られることが期待されます。

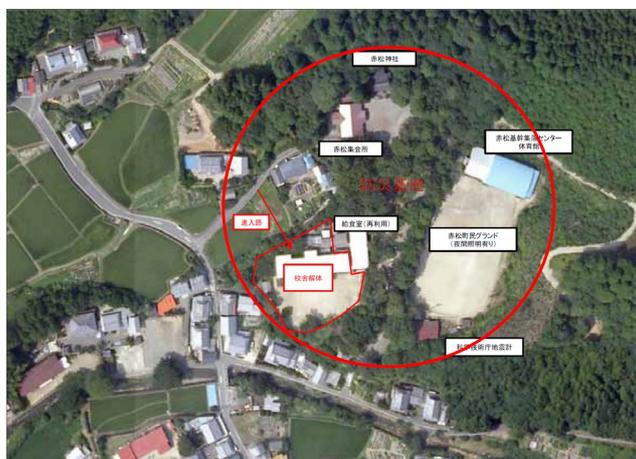


図 赤松地区の防災基地整備
出典：美波町提供資料